

平成29年度

平成30年1月31日

# 学校だより



夢に近づけ 今、鴨居がいいかも！  
横浜市立鴨居小学校

電話 045(931)2062

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/kamoi/>

## 8回目のオリンピック

副校長 立花 充

2月9日（金）から韓国で、平昌（ピョンチャン）オリンピック・パラリンピックが始まります。

フィギュアスケート、スピードスケート、スキージャンプ、スノーボードやフリースタイルスキー、そしてチェアスキーなどメダルの期待がかかる日本選手もたくさんいて、観戦するのが楽しみです。

中でも8回目のオリンピック出場となる葛西紀明選手のことは、皆さんよくご存じでしょう。前回のソチオリンピックには41歳で出場し、個人で銀メダル。団体で銅メダルを獲得しました。30年以上の経験と40歳を過ぎてもトップ選手でい続けることから「レジェンド（生きる伝説）」と呼ばれている人です。

四年前のメダリストインタビューで、「金メダルをとるまで続けたい。」と話していた葛西選手。「さすがにそれは…」と思った人も多いと思います。私はそんな気持ちをもちつつ、「でも、この人なら、本当にできるかもしれない。」とっていました。

私が葛西選手を知ったのは、今から30年近く前。葛西選手が19歳で初めて出場したアルベールビルオリンピックの時です。当時、葛西選手の妹さんは難病と闘っており、葛西選手の活躍を何よりも楽しみにしていたそうです。「オリンピックの金メダル見せれば、きっと病気はよくなる。妹のためにも金メダルを取る。」葛西選手はそう言って出発していきました。この時の結果は残念ながらメダルに届かず、妹さんに金メダルをプレゼントすることはできませんでしたが、1か月後の世界選手権で金メダルを獲得します。もちろんそのメダルは妹さんに届けられましたが、葛西選手の「オリンピックで金メダル」の思いはこの時からずっと続いているのです。

その後も葛西選手は、ワールドカップや世界選手権で何度も表彰台に上がり、金メダルを獲得しますが、どういうわけかオリンピックの金メダルだけが手に入りません。

葛西選手2回目のオリンピックはリレハンメル大会。この時の団体戦は、金メダル目前で最後のジャンパーの失敗ジャンプで銀メダル。3回目のオリンピックは長野大会。団体戦で日本は金メダルを取りましたが、葛西選手は直前に団体戦のメンバーからはずされてしまい、金メダルを手にしていません。その後、ソルトレイク・トリノ・バンクーバー大会では表彰台に届かず、そして、ソチ大会で初めてメダルを獲得することになるのです。

自分の目標である「金メダル」を目指して約30年。何度も大きな挫折や不運、不幸を乗り越えてきた葛西選手のジャンプは、「人間はここまで強くなれる」ということを教えてくれるように思います。平昌オリンピックは、そんな勇気をもらいつつ、葛西選手の「今度こそ」を応援したいと思っています。

